

広島県地方産業教育審議会「中間報告」に係る 県民意見募集（パブリックコメント）の結果【概要】

- 1 実施期間：令和4年6月1日（水）から6月30日（木）まで
- 2 実施方法：郵便，ファクシミリ，電子メール，ホームページアンケートフォーム
- 3 件数（人数）：72件（32人）
- 4 意見の概要：次のとおり（中間報告の目次の項目ごとに整理）

「2 目指す姿」に係る主な意見

(1) 生徒の姿	【中間報告 P. 9】
○ 「なぜ働くか」「なぜ学ぶのか」「どう生きるのか」を探究する教育の在り方を深掘りし、その深掘りの議論を行った上で、専門高校がそれぞれの専門性を活用して育てる生徒の力を具体的に示してほしい。	
(2) 教職員の姿	【中間報告 P. 10～11】
○ 教職員が産業界等とのつながりを率先して強めていこうと行動することが大切である。 ○ 教職員も Society5.0 時代に対応した資質・能力を身に付けなければならない。	
(3) 学校の姿	【中間報告 P. 11】
○ 学びのフィールドを学校に限定しない点は、学びの可能性を広げる上で重要になる。	

「3 目指す姿の実現に向けた産業教育の方向性」に係る主な意見

(1) デジタル化の進展への対応	【中間報告 P. 12】
○ デジタル技術を活用しながらより良く生きていくために必要な資質・能力の育成が、今後の教育の大きな目標であり、デジタル環境の中で自ら考えて行動し、市民社会に参画する力を育むためのデジタルシティズンシップ教育が必要である。	
(2) グローバル化の進展への対応	【中間報告 P. 12】
○ グローバルで活躍できる人材を育成するためには、グローバル人材が必要とするスキルや能力に特化した研修等が必要である。	

「4 目指す姿の実現に向けた産業教育に関する方策」に係る主な意見

(1) 教育課程の編成・実施	【中間報告 P. 14～15】
○ イノベーションやデータ活用等のDXの基礎を学ぶ学習プログラムの実践を行ってはどうか。 ○ 課題を抱える企業でのインターンシップに加え、企業の課題や解決方法に精通し、実践している産業支援機関へのインターンシップを通じて、客観的な視点から企業や地域の課題解決を体験できる実践教育を行ってはどうか。	
(2) 教職員の資質・能力の向上	【中間報告 P. 15～16】
○ 教職員が、「本質的な問いを設定する力」や「ファシリテートする力」といった力を身に付けるため、これまでと異なった、新しい手立てが必要である。 ○ 専門高校の教員でも実社会で働いた経験がない教員もいるため、短期間・長期間を問わず、専門高校の教職員を優先的に企業研修に参加させるべきである。	
(3) 教育環境の整備	【中間報告 P. 16】
○ パソコン教室や総合実践室へのモニター設置、体育館等の Wi-Fi 整備など、学校におけるデジタル機器の充実、インターネット環境の整備が必要である。 ○ 就職指導や産業教育への理解促進、インターンシップ等の充実を図るため、学校と産業界をつなぐコーディネーターの配置を推進してほしい。	
(4) 専門教育の魅力等の発信（理解の促進）	【中間報告 P. 17】
○ 専門高校の最大の課題は入学者の確保である。広島県・日本の発展に果たしてきた専門高校の歴史と役割を広く発信し、専門高校のステータスを上げるべきである。	